

漁況予報 いわし

第134号

2006年3～4月漁期
(2006年3月9日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における1月のマイワシ総水揚げ量は14トン(速報値)で、前年同期の12トンと同程度でした。2月に入ると来遊水準が下がり、総水揚げ量は1.5トン(速報値)となりました。(前年同期0.8トン)

佐島地区のまき網3統は、1月に1隻が1日のみ中羽主体で2.7トンの水揚げがあっただけで、あとは2月まで漁獲はありませんでした。

定置網での魚体は、前年暮れよりも小さい明け1歳魚(2005年級群)小羽マイワシ(12～13cm台)主体で、肥満度も10～11で痩せた個体群でした。これらの個体は近県情報を基にすると、他海域で成長した群の一部で、シラス期から相模湾で成長した群ではないと思われる。

しらすの試験操業では、江ノ島～平塚海域において12月生まれのマシラスがカタクチシラスに混じり採集されていますので、これらの個体がうまく残れば夏以降、小羽・中羽マイワシとして多少の漁獲が望めるでしょう。

【かたくちいわし】

主要定置網における1月のカタクチイワシ総水揚げ量は80トン(速報値)で、昨年同期(270トン)を大きく下回る値となりました。

2月に入っても同様に水揚げ量は少なく、計30トン(速報値)と昨年同期(300トン)を大きく下回りました。

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しましたが、少ない漁獲に終始しました。

定置網での魚体は、9～11cm台の明け1歳魚(2005年級群)の小型成魚主体で、日には12cm台の大型魚が多く混じる日もありました。

昨年のこの時期は12cm以上の大型魚主体に西湘地区を中心に豊漁傾向でしたが、今年は明け2歳魚(2004年級群)の資源水準が非常に低いこともあり、小型成魚主体で推移しています。

【しらす】

当センターでは解禁に先立ち試験操業を行いました。1月は、三浦半島側の調査では反応が皆無でしたが、江ノ島以西では片瀬～茅ヶ崎にかけて小さな群れの反応がいくつもあり、4回の網入れで70kgの採集量でした。越冬(全長30mm以上)カタクチシラス主体にマシラス混じりでした。2月は、三浦半島側の調査では相変わらず皆無でしたが、江ノ島以西では1月同様、片瀬～茅ヶ崎で反応がありました。魚群はいずれも水面下2～5mに浮いていて浮きを付けての採集となりました。特に27日の調査では20mmのカタクチシラスが多く混じり、新仔が既に出現していることがわかりました。春シラスの親である大型成魚はかなり少ないので、6月までの漁獲は前年並みか前年をやや下回る水準となるでしょう。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、小羽イワシ(1歳魚、2005年級群)が漁獲の主体になるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、定置網を主体に約20トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体になるでしょう。

今漁期の漁獲量は、約370トンと予測されます。

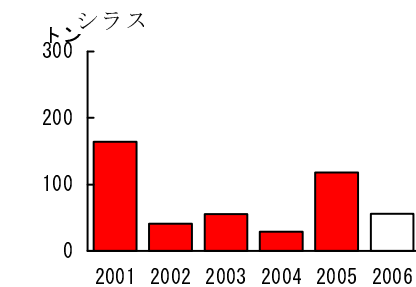
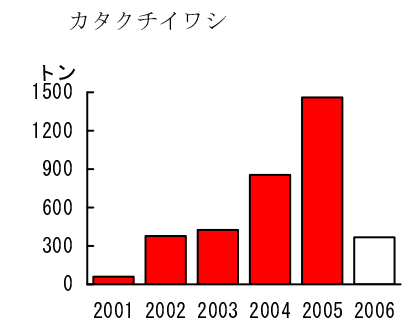
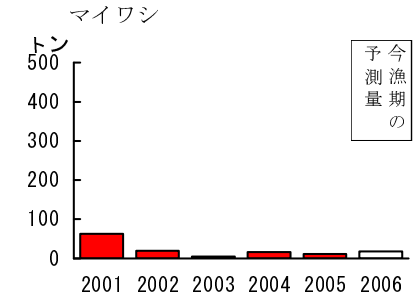
しらす

今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

試験操業の結果及び大型成魚資源量指数値からして、3月中はマシラスとカタクチシラスの混じりで散発的、4月中旬以降、カタクチシラスの本格的な来遊が始まるでしょう。

今漁期の漁獲量は、約55トンと予測されます。

過去5年の3・4月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量



神奈川県水産技術センター資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313